

ニッポン
ドクター和の
臨終図巻



長尾和宏(ながお・かずひろ)
医学博士。公益財団法人日本
尊厳死協会副理事長としてリビ
ング・ウィルの啓発を行う。映画
『痛くない死に方』『けったいな
町医者』をはじめ出版や配信な
どさまざまなメディアで長年の
町医者経験を活かした医療情報
を発信する傍ら、ときどき音楽
ライブも。

357

作曲家キダ・タロー

90歳過ぎても未来見続けた若い精神

とーれとれ、ぴちぴち、カニ料理
〜♪ 道頓堀の巨大なカニの看板の
下を通るたび、つい口ずさんでしま
うあのメロディーも、この人の作品
でした。テレビ番組のテーマ曲やC
Mなど合わせてなんと5000曲を作曲
(自称)。本物のモーツァルトが作曲
した楽曲は626曲だといえますから、
浪速のモーツァルトの圧勝でした。

作曲家としてだけではなく、ピア
ニスト、タレント、ラジオパーソナ
リティーなど幅広く活躍されていた
キダ・タローさんが、5月14日に大
阪府内の自宅で亡くなりました。享
年93。死因はご本人の希望によって
発表されていません。

キダさんは、この春まで仕事を続
けていました。3月29日には、最高
顧問を務めていた『探偵! ナイトス
クープ』(ABCテレビ)の収録に



出演。その後に体調を崩して入院。
退院後、ご自宅で療養をされていた
そうです。

キダさんと親交が深く、同じ事務
所でもあるシンガーソングライター
の円広志さんは、キダさんが生前、
こんな話をされていたのを聞いてい
ました。

「老衰という言葉が嫌。自分に何
かあっても老衰やない。自然死や」
これは、何千人も看取ってきた在
宅医の僕から言わせれば大変不思議
な言葉です。当連載でも何度も書き
ましたが、老衰とは、天寿を全うさ
れた人に訪れる自然な死のこと。今
や死因の第3位です。

厚生労働省の死亡診断書(死体検
査書)記入マニュアルにも、「死因
としての『老衰』は、高齢者で他に
記載すべき死亡の原因がない、いわ
ゆる自然死の場合のみ」と書かれて
います。だから、キダさんの先の言
葉は医学的には矛盾したものです。
だけど、言わんとしていることはよ
くわかります。

老いて、衰える死と書いて老衰
死。僕も昨年、65歳を過ぎて「高齢
者」の枠に入りました。確かに体力

的にも数年前とは明らかに違う。ま
さに<老いるショック>真っただ中
ともいえる年頃で(笑)、「もう老
人やから…」「爺さんやもんで、す
んまへん…」などと口にするよう
になりました。ある種の自己防衛かも
しれません。周囲から「老人のくせ
に」と思われたくなくて、先に開き
直ってしまう。そして「ええ? 全
然おじいさんじゃないですよ!」と
若い女性に言ってもらえることを、
心のどこかで待っているのかも。

人間は、いつから老いるのか?
自分が「老いた」と実感した日から
老いるのではないのでしょうか。キダ
さんは90歳を過ぎても若い精神のま
まで、老いを実感していなかったの
でしょう。

「自身の最高傑作は?」と訊かれ
ると必ず「次の作品」と答えていた
というキダさん。過去に執着せず、
いつも未来を見続けることも若さの
秘訣(ひけつ)なのでしょうね。